

◎ 聴解問題スクリプト

Track 22

13番 男子学生と女子学生が、映像メディア論の授業について話しています。この男子学生は、この授業で難しかったのはどんなことだと言っていますか。

男子学生：昨日の映像メディア論の授業、大変だったんだ。

女子学生：何をしたの？

男子学生：新聞の中から記事を選んで、それを1分間の音声用のニュース原稿にして発表する練習をしたんだ。

女子学生：え？ 記事をそのまま読むだけじゃダメなの？

男子学生：うん、聞いただけでわかるような原稿にするには、結構書き直しが必要なんだよ。新聞なら写真や図もあるし、読み返すこともできるけど、音声だけだとそうはいかないからね。それをわかりやすくするのが難しいんだ。

女子学生：じゃ、短い記事を選べば、楽なんじゃない？

男子学生：いや、記事が小さすぎると、時間が余ったりするんだよ。上手に使えば、1分でもかなりの内容が盛り込めるからね。

女子学生：へえ、意外と大変なんだね。

この男子学生は、この授業で難しかったのはどんなことだと言っていますか。

1. 一度聞いただけでわかるように記事を書きかえること
2. 1分で読める長さの記事を選ぶこと
3. 短い記事にいろいろな内容を盛り込むこと
4. 記事に出てくる専門的な言葉を理解すること

Track 23

14番 先生が、子ども向けの展覧会について説明しています。この先生は、子ども向けの展覧会について、どのようなものがよいと言っていますか。

皆さんが将来、子ども向けの展覧会を企画したと考えてみましょう。子ども達に芸術作品に触れてもらうために、どのような工夫をするでしょう。おとぎ話の世界をテーマにしますか。自由に粘土で遊べるコーナーを作りますか。私がメキシコで見た子ども向けの展覧会は、そうした子どもの興味に合わせた展示物をそろえるのではなく、通常大人向けに展示する芸術作品を、子どもの身長に合わせて展示してありました。子ども向けの展覧会だからといって、内容やテーマを子ども向けにすることばかりにとらわれていては、幅広い芸術作品に触れてもらうことができなくなってしまいます。子どもたちがより多くの芸術に触れることができるようにするためには、こうした工夫が必要なのです。

この先生は、子ども向けの展覧会について、どのようなものがよいと言っていますか。

1. 子どもの背の高さを考えて作品を展示する。
2. 子どもが楽しめる体験コーナーを設ける。
3. 子どもの興味に合わせた作品を展示する。
4. 子どもが芸術作品に手で触れてもいいようにする。

Track 24

15番 先生が、正しい判断の仕方について話しています。この先生が話す例で、先生が店員の判断が正しくなかったと考えるのはどうしてですか。

仕事や作業をするときの規則や方法や手順などをまとめたものを、マニュアルと呼びます。マニュアルに従って行動すれば、経験のあまりない人も安心して仕事ができる、という意味で重要です。しかし、マニュアルにしばられてしまい、その本当の目的を考えないで行動すると判断を間違えることもあります。例えば食堂で、客に出すご飯の量がマニュアルで決められているとします。その食堂の店員が、客から「ご飯が多すぎて食べきれない。残したらもったいないから減らしてください」と言われたときに「ご飯の量は決められているから、減らせません」と断ったとしたらどうでしょうか。マニュアルでご飯の量が決められているのは、実は多く出さないようにすることによって、利益を確保するためなのです。こう考えれば、この店員の判断は正しくなかったということがわかりますね。

この先生が話す例で、先生が店員の判断が正しくなかったと考えるのはどうしてですか。

1. 規則で決められた行動の本当の目的を理解していなかったから
2. マニュアルが間違っていることに気がつかなかったから
3. 客の気持ちを理解できなかったから
4. 上司に確認してから返答するという手順を怠ったから

Track 25

16番 女子学生と男子学生が文化祭のポスターについて話しています。この男子学生は、どんなポスターを作ることにしましたか。

女子学生：何、考え込んでるの？

男子学生：あ、先輩。文化祭のポスターを作ってるんですけど、なんかうまくいかなくて。

女子学生：へー、手書きにしたんだ。個性的でいいね。でも、ちょっと文字が多すぎるかなあ。イラストを入れてみたら？

男子学生：でも、絵に自信なくて……。

女子学生：じゃあ、写真とかはるの？

男子学生：写真か、いいですね。写真を入れるんだったら、パソコンで作ったほうがきれいにできますよね。

女子学生：うーん。パソコンだと整いすぎて、逆に印象薄くなっちゃうと思うよ。のりではり付けたほうがいいんじゃないかな。

男子学生：なるほど。それ、いいですね。

この男子学生は、どんなポスターを作ることにしましたか。

1. 写真をパソコンで編集したもの
2. 絵と文字を手で書いたもの
3. 写真をはり付けた手書きのもの
4. すべてパソコンで作ったもの

Track 26

17番 先生が、あることわざについて話しています。この先生は、ことわざについて何と言っていますか。

「早起きは三文の得」ということわざを知っていますか。「早起きをすると健康にもよく、いいことがあるものだ」という意味で、早起きを奨励していますね。このことわざは、睡眠時間を削って働くことに価値をおく世の中になってから、このような意味に変化したのだそうです。

「三文」という言葉は、本来は「たいして価値のないもの」という意味で使われていました。ですから、このことわざは元々は「早起きしてもたいしていいことはない」という意味だったのです。ことわざは、このように使われ方が変わることもあります。

この先生は、ことわざについて何と言っていますか。

1. ことわざは時代背景によって意味が変化することがある。
2. ことわざをたくさん覚えておくことにはあまり意味がない。
3. ことわざの言葉の意味は正しく使うべきだ。
4. ことわざの教えにはたいした価値はない。

18番 女子学生と男子学生が、読書について話しています。この女子学生は、高校生が本を読むようにするにはどうすればいいと言っていますか。

女子学生：今朝ニュースで見たんだけど、1か月に1冊も本を読まない高校生が4割以上もいるんだって。

男子学生：4割？ それは多いね。授業でもっと本を読ませればいいのに。

女子学生：それはどうかなあ。読書を義務だって思っちゃうと、かえって嫌になるんじゃない？

男子学生：ああ、そうだね。楽しくなければ続かないか。

女子学生：楽しい本があるってことを、もっと積極的に伝えなきゃ。

男子学生：どうやって？

女子学生：大人向けの本なら新聞や雑誌なんかに本の紹介が載るけど、高校生向けはあまりないじゃない。

男子学生：それはそうだね。

女子学生：学校の図書館でお薦めの本について書いたパンフレットとかを配ればいいのよ。

男子学生：なるほど。

この女子学生は、高校生が本を読むようにするにはどうすればいいと言っていますか。

1. 学校の図書館に楽しい本を入れる。
2. 学校の授業に読書を取り入れる。
3. 学校の図書館で本の紹介をする。
4. 新聞に高校生向けの本の紹介を載せる。

19番 先生が、動物園で飼育されているチンパンジーなどの動物の健康について話しています。この先生は、チンパンジーへのえさやりについて、どうするべきだと言っていますか。

動物園で飼育されているチンパンジーなどの動物は、栄養のあるえさをもらっているにもかかわらず、体調を崩すものが少なくありません。野生動物の場合、えさを求めていろいろな所に移動し、食べることに一日の大半を費やすのが普通です。ところが、動物園のチンパンジーは、えさを探し回るようなことはありません。しかも、そのえさは、バナナなどの柔らかい果物や加工した物が中心で、短い時間で食べ終わってしまいます。野生に比べて食べることに費やす時間が極端に短いために、一日の行動時間の中で退屈な時間が長くなり、ストレスから体調を崩してしまうのです。

飼育動物は、野生とは違った環境下におかれているのですから、まったく同じように行動させるのは困難ですが、できるだけ野生に近い状態にしてやる必要があります。えさを木の上などに隠したり、草などの、かみごたえがあって、食べるのに時間のかかるえさに変えてやるのが、その助けになるでしょう。

この先生は、チンパンジーへのえさやりについて、どうするべきだと言っていますか。

1. 与えるえさの量を少なくする。
2. 食事に費やす時間が長くなるようにする。
3. えさの時間を決めて、定期的に与える。
4. 見物している人から見えない場所でえさを与える。

20番 先生が、最初の授業で、これからの授業の進め方について話しています。この授業で、発表者以外の学生は、毎週どんな準備をしなければなりませんか。

この授業は、受講している学生の中から発表者を決めて、毎週一人ずつ発表してもらい、それを聞いて全員で意見を出し合いながら進めていきたいと思っています。発表する内容については、発表者が決まったら資料を渡しますので、人数分コピーして事前に、そうですね、一週間前までには配っておいてください。全員その資料を読んでみてくださいね。発表する人は、それ以外の資料にもあたってテーマについて調べ、発表してください。ただ調べるだけでなく自分の意見もまとめておくといいですね。

この授業で、発表者以外の学生は、毎週どんな準備をしなければなりませんか。

1. 配られた資料を読んできると。
2. ほかの学生の意見を聞いてくる。

3. テーマに関係のある資料を探してくる。
4. 自分の意見をまとめてくる。

Track 30

21番 男子学生と女子学生が、ITの普及に対する企業の評価について話しています。この女子学生が、意外だと感じたのはどんなことですか。

男子学生：さっきの授業で、ITの普及に対する企業の評価っていうの、面白かったね。

女子学生：うん、ITが普及して、業務のスピード化が求められるようになったって感じる企業が一番多いんだね。

男子学生：その他にも、他社との競争が激しくなった、とか、客のいろいろな要望に対応することが増えて忙しくなった、とかを挙げてる企業も多かったね。

女子学生：それって、前より大変になったってことだよな。何か意外だな。

男子学生：何が？

女子学生：ITの導入は、企業にもっとプラスに評価されているのかと思ってた。ビジネスの幅が広がったとか。

男子学生：便利な世の中になるにつれて、企業に求められることもどんどん変わったり、増えたりしてるから、それにこたえるのが大変なんじゃないかな。

この女子学生が、意外だと感じたのはどんなことですか。

1. 普及によるデメリットも多いということ
2. 普及によって業務のスピード化ができたこと
3. 普及による影響がたいしてないこと
4. 普及してもビジネスの幅があまり広がらないこと

Track 31

22番 インテリアデザインの授業で、先生が部屋の照明器具について話しています。この先生は、どのような方法を勧めていますか。

部屋の照明器具は、天井につけて部屋全体を照らすというやり方が最も広く行われています。しかし、一般家庭の居間のような、特別明るくする必要のないところでは、光を置く場所や光を向ける方向を工夫すると、雰囲気のある空間をつくることができます。例えば、天井の照明を消して、床にオレンジ色の明るすぎない照明をつければ、落ち着いた雰囲気になる。また、観葉植物に光を当てると、それらの影ができて美しいですし、絵画などに照明を当て、見せたいものだけを強調するのも効果的な照明の使い方です。しかし、個性的な照明器具をいろいろ置きすぎると、かえってうるさく感じられますので、使い方に注意が必要です。

この先生は、どのような方法を勧めていますか。

1. 個性的な照明を一度にたくさん使うこと
2. 照明を置く場所や照らす物を工夫すること
3. 部屋を暗くしすぎないようにすること
4. 色つきの明るい照明を使うこと

Track 32

23番 先生が、交通の便と観光との関係について話しています。この先生が最後に挙げる例では、交通の便がよくなったことで、どんな影響がありましたか。

みなさんは、旅行ですんなり目的地に行けなかったとき、思いがけない出会いや発見があったりして、たくさんの思い出が残ったという経験がありませんか。観光地への交通の便が悪いというのは、その土地の価値を高めたり、魅力を引き出したりする場合があります。例えば、京都には、船に乗らなければたどり着けない宿がありますが、その不便さが「わざわざ行く」という非日常的な楽しみを与えてくれるのです。

では、交通の便がよくなるとどうでしょう。ある観光地では、高速道路ができたために、泊まりの客が減少してしまいました。車で行きやすくなったので、気軽に日帰りで訪れる人が増えたのです。高速道路の開通で、現地の暮らしは便利になりましたが、観光産業にとっては大きな問題です。

この先生が最後に挙げる例では、交通の便がよくなったことで、どんな影響がありましたか。

1. 地元住民が減った。
2. 日帰り客が減った。
3. 宿泊する客が減った。
4. 車の渋滞が減った。

Track 33

24番 男子学生と女子学生が、人間の記憶について話しています。この女子学生は、人間の記憶についてどう言っていますか。

男子学生：先週、偶然、小学校のときの友だちに会って、昔のことを話したんだけど、あまりよく覚えてないもんだね。

女子学生：うん。でも、実際には結構記憶しているんだよ。簡単に思い出せなくなってるだけで。

男子学生：えっ。そうなの？

女子学生：うん、だから何かのきっかけで、急に思い出すことがあるでしょ。例えば、昔

よく聞いた音楽を聞くと、その当時のことを思い出すとか。

男子学生：そう言えば、前に、電気の刺激で記憶を思い出させる実験をやったっていう記事を読んだことがあるな。

女子学生：まあ、電気はともかく、何かの刺激を受けると記憶がよみがえることってあるよね。

男子学生：ああ確かにね。僕は、公園で草のにおいをかぐと子どものころを思い出すよ。

この女子学生は、人間の記憶についてどう言っていますか。

1. 印象に残ったことのみを記憶している。
2. 音楽やにおいを伴う出来事を記憶している。
3. 忘れてしまったと思うことも実は記憶している。
4. 体に受けた刺激の強さを記憶している。

Track 34

25番 先生が、ヒトの感覚について説明しています。この先生は、「辛い」という刺激に対して、ヒトの体でどのようなことが起こると言っていますか。

私たちにとって「辛み」は味覚の一つです。ところが、ヒトの体内では「辛み」は味覚センサーが感じるものではありません。実は、「辛い」という刺激には、温度に反応する感覚が深くかかっています。例えば、辛いトウガラシがヒトの体内に取り込まれると、42度以上の温度に対する反応と同じ反応が起こります。そのため、トウガラシを使った辛い料理を食べると、口の中が熱いと感じたり、全身で汗をかいたりするのです。この温度センサーは口の中だけではなく全身にあります。肌にトウガラシをはり付けると、そこがポカポカ温かく感じるのは、トウガラシに接している部分の温度センサーが「熱を受けている」と錯覚するからなのです。

この先生は、「辛い」という刺激に対して、ヒトの体でどのようなことが起こると言っていますか。

1. 口の中が42度以上の高温になる。
2. 味覚のセンサーが麻痺する。
3. 熱で辛みを分解しようとする。
4. 熱に反応するセンサーが働く。

Track 35

26番 先生が、人の能力を高める二つの力について話しています。この先生が挙げる例の場合、二つの力がどのように変化してきたと考えられますか。

人は、さまざまな力に導かれ、動かされて、能力や学力を高めます。そのように作用する力を、外圧と内圧とに分けて考えてみましょう。

外圧というのは、例えば、親が子どもに基本的な生活習慣について教え、うまくできれば褒め、失敗すればしかるといった、いわば外から加わる力のことです。これに対して、内圧は人の心の中からわき上がる力で、興味や好奇心などと言い換えてもよいのですが、主体的・自発的に学んだり行動したりさせる力を言います。

この二つの力のバランスは、ある行動や学習を持続させていくうちに変わることもあります。次の例ではどうでしょう。好きで始めたスポーツであったものが、そのうち飽きてしまって、監督やコーチに「練習を休まないように」と注意されるのでなんとなく続けている、という子どもの場合、二つの力はどのように変化してきたのでしょうか。

この先生が挙げる例の場合、二つの力がどのように変化してきたと考えられますか。

1. 内圧も外圧も強くなった。
2. 内圧も外圧も弱くなった。
3. 内圧が強くなり、外圧が弱くなった。
4. 内圧が弱くなり、外圧が強くなった。

Track 36

27番 先生が、「ゲラダヒヒ」という動物について説明しています。この先生が、ゲラダヒヒについて興味深いと言っていることは何ですか。

海拔3000メートルの高地に住むゲラダヒヒというサル的一种は、争いを嫌うことで知られています。群には上下関係がなく、平等で平和な社会が形成されています。もちろん、ちょっとした争いが起きることはありますが、他のサルのように力まかせに相手に言うことをきかせるようなことはしません。相手の気をしずめたり、安心させたりしようとすることによって、事態の収拾をはかるのです。実際に、表情や身振り手振りを使いながら、30種類以上の音声を組み合わせて意思の疎通をはかっていることが報告されています。争いごとを上手に回避し、平和を維持する能力にたけているわけです。同じサルの仲間でも、進化の系統においてはゲラダヒヒよりも人間に近いとされるチンパンジーやゴリラには、このような能力は見られません。ゲラダヒヒだけに見られるこの生態は実に興味深いですね。

この先生が、ゲラダヒヒについて興味深いと言っていることは何ですか。

1. 非常に高い場所に住んでいること
2. 群れの中に複数の社会を形成していること
3. 進化の系統で人間にもっとも近いサルであること
4. 争いを避けるコミュニケーション能力があること